

Ⅲ 生産者と消費者の思いを伝える農林水産業の実践事例

農家れすとらん「葉菜の舎」の取り組み

碧南市にある「農家れすとらん^{はなや}葉菜の舎」は、養豚を営んでいた下島良一、和子夫妻が20年以上前から取り組んできたハムソーセージ作りと、地元の野菜が食べられる店があれば素敵だろうという思いから、地産地消の新鮮な野菜を用いた料理を提供するレストランを2007年にオープンしました。素材の良さは口コミで広がり、地元で評判を呼んでいます。



有限会社小久井農場の取り組み

岡崎市にある有限会社小久井農場（小久井孝幸社長）では、生産部門（水稻、小麦、大豆、野菜栽培）、加工部門（味噌、米の精製）から平成25年4月に開設した直売所を拠点とした販売部門までの6次産業化に取り組んでいます。その取り組みは幅広く、生産の基本となる土づくりから、地域の小中学校への農業体験の提供など、消費者の視点にたった「安全・安心でおいしい健康な作物」、「一度食べたら忘れられない味」を目指して活動を展開しています。



ふじかわイノちゃんドッグ発売開始

岡崎市の道の駅藤川宿では、田畑を荒らすイノシシの肉を使い、新たな地産地消のメニューとして、ホットドッグを開発し、販売を開始しました。

JAあいち三河がNPO法人「中部猟蹄会」の解体処理施設「三州マタギ屋」にホットドッグ用として加工依頼したソーセージを使用しています。

その他、米粉パンをはじめ、付け合せの具材は市内産、県内産、国内産の順に優先して使用しています。

公募で選定された「イノちゃんドッグ」という名前に地名「ふじかわ」を付け加えて商品名を決定し、価格は1個370円と手ごろな価格で、好評を得ています。



抹茶がペットボトルに

西尾市内の若手農家84名から成るJA西三河青年部（赤堀正光部長）は、西尾市の地域ブランドである抹茶をどこでも手軽に楽しめるようにしたいとの思いから、抹茶飲料の商品化に成功しました。

「西尾の抹茶 和（なごみ）」の商品名で、販売者のJA西三河管内のAコープ等で、170mlペットボトル入り、小売価格300円（税込）で発売されています。

石臼挽き抹茶を使用し、穏やかなうまみとコクが特徴で、キャップをひねることで抹茶粉末がボトル内に放出され、ボトルを振って手軽に本格抹茶を楽しめるものとなっており、消費者の好評を得ています。



碧海農業フェスティバルの開催

碧海地区の農業関係5団体（農業経営士、農村生活アドバイザー、青年農業士、4Hクラブ、農村輝きネット）は、碧海農業フェスティバル実行委員会（事務局 農業改良普及課）を組織し、毎年「碧海農業フェスティバル」を開催しています。

本年は、平成26年11月29日に安城市の「でんまあと安城西部」を中心に開催し、各団体が楽しく消費者と交流できるよう工夫を凝らした企画を実施しました。地元農産物の加工体験・試食（バター、ニンジンサラダ、ニンジンジュース、コメ品種の食べ比べ）、農業講座、農業機械展示（大型トラクタ）・実演（ニンジン収穫機）及び農産物展示（農の花飾り）など、大勢の消費者の参加があり盛況でした。



IV 「農のある暮らし」の実践事例

こども達が豆腐作りを体験

高浜市のNPO法人だいずきっずが、幼児・小学生・特別支援学校及び父兄等参加者 200名を対象に、平成27年2月8日に豆腐作り教室を開催しました。

この教室は、大豆の種まき、枝豆収穫、大豆収穫、豆腐作りに至る一連の農業体験の取り組みとして行っているだいずプロジェクトの最後のイベントとなりました。

子ども達は、自ら育ててきた大豆で作った豆腐を味わいながら、食べ物ができるまでの苦労と喜びを感じ取ることができ、素晴らしい体験となりました。



小学生が青果市場を見学

幸田町内の小学生8名が食育体験教室として、日頃食べている野菜や果物の流れについて知識を深め、食について学ぶことを目的に、碧南市の(株)衣浦総合卸売市場を訪問しました。

齋藤勘治市場長の説明のもと、これから出荷されていく野菜の流れについて学ぶとともに、地元幸田町産なすの袋詰め体験をしました。

子ども達は、多くの人々の働きのおかげで新鮮な青果物が食べられることを知り、楽しく充実した体験教室になりました。

- ・実施主体 幸田町
- ・実施日 平成26年9月27日（土）
- ・参加者 小学生8人
- ・場所 碧南市 (株)衣浦総合卸売市場



田んぼの生き物調査

農業農村多面的機能支払事業の取組組織である「水土里豊かな北浜川西を創る会」では、毎年、農家の方を始め地域の住民や小学生が参加して、地域内の田んぼや水路で生き物調査を実施しています。実際に水路の中に入って、網やタモを使って採取した後は、図鑑等で種類や生態を調べたりして、環境保全の大切さなどを勉強しています。自然の生き物にふれる機会が少なくなった子供たちにとっては貴重な体験となっています。

開催日：平成26年7月6日

開催場所：西尾市新在家町



海の生き物とのふれあい

若い世代への愛知県産水産物や漁業の理解促進を図るため、西三河管内の漁業士や水産業普及指導員を魚食の大切さや漁業のすばらしさ、役割等を伝える「魚食の伝道師」として小学校に派遣しています。

26年度は、アサリ、ノリ等の西三河の水産物に関する講義を行い、また、生きた水産物と触れ合って楽しく水産業を学びました。

・派遣日及び派遣小学校

平成26年 6 月30日 岡崎市立形埜小学校（4、5、6年生 31名）

平成26年 7 月14日 岡崎市立竜谷小学校（3、4年生 45名）

平成26年10月28日 幸田町立中央小学校（5年生 90名）



小学生が間伐作業を体験

岡崎市内の小学6年生40人が森林について学ぶため、平成26年9月12日に宮崎財産区有林内で間伐作業を体験しました。

額田林業クラブの会員6名が指導者となり、ロープ結び、伐倒、ロープ引き、枝払い、搬出、皮むきの一連の作業の手本を示しながら、児童たちにわかりやすく教えていました。作業の合間に森林の機能や手入れの大切さ等の解説もあり、児童たちは真剣に話を聞き、森林への理解が進んだ様子でした。

また、児童たちは伐倒した木を輪切りにし、年輪を数えたり、においをかいだり、五感を使って、楽しみながら木に親しんでいました。





食と緑の西三河地域レポート ' 15

—明日の食と緑を育む西三河の農林水産業—

平成27年7月発行

愛知県西三河農林水産事務所
岡崎市明大寺本町1-4
電話 0564-23-1211内線 2437 (農政課)
電子メール nishimikawa-nourin@pref.aichi.lg.jp

